

# 京都芸術劇場ニュースレター



京都芸術劇場15周年

15  
anniv.

さらなる実験と冒険へ

鶴 白頭 Photo: 吉越研



節分 Photo: 政川慎治

2017年1月29日(日) 14:30

企画・監修 渡邊守章  
春秋座一能と狂言

## 「鬼揃え」の鬼と狂言

すっかりおなじみになった渡邊守章監修「春秋座 能と狂言」、8回目の演目は「鬼揃え」となりました。能は、「頭は猿、尾は蛇、足手は虎のごとくにて、鳴く声鶴に似たりけり」という怪獣「鶴」がシテの『鶴』、狂言は節分の夜に蓬萊の島からやってきた愛すべき鬼がシテの『節分』です。

鶴はトラツグミという鳥の異名で、その異名がいつしか「頭は猿、尾は蛇」という空想上の怪獣の名にも用いられるようになったのですが、その怪獣鶴の初見は『平家物語』の「鶴の事」で、そこでは近衛天皇を悩ました鶴を源頼政が矢で射て名をあげ、射られた鶴は丸木をくりぬいた「うつぼ舟」に入れられて淀川に流されたことが記されています。それをもとに鶴をシテに作られたのが世阿弥の異色作『鶴』です。『平家』の主演は頼政ですが、『鶴』の主演は鶴の亡心で、頼政は登場しません。ですから、『鶴』一曲には必然的に敗者鶴の成仏希求と、しかしそれがかなわぬ絶望感が描かれます。「悲しきかなや身は籠鳥」と呟きつつ登場した鶴は、終曲部では「暗きより暗き道にぞ入りにける」と海中に消えてゆくのです。ここに描かれているのは「敗者としての鶴の悲哀と絶望」ですが、作者はそこになにを託したのか。『鶴』が作られた世阿弥晩年期の状況を考えると、ここには作者世阿弥の深刻な挫折体験があったのではないと思われるのです。また、その深い「絶望」「挫折」が鶴という存在を超えて、普遍的な感情として現代人に訴える力を持っている、『鶴』はそんな作品のように思われます。

もうひとつの『節分』の鬼は、夫が留守中の妻に心を奪われ、妻の歓心を買おうと、さまざまの流行歌謡を謡い、涙ぐましい努力をする鬼で、15世紀半ばには制作されていた古い狂言です。『鶴』とは対照的な鬼ですが、いずれも「人間的」という点では共通しています。能も狂言も、いつもの豪華メンバーです。

天野文雄

### 特集

春秋座一能と狂言

1P

ポール・クローデル作『織子の靴』

4P

歌劇『カルメン』全4幕

5P

## 15年を彩った人たち

### 2011年—2015年

2001年5月の柿落し公演から様々な方が京都芸術劇場 春秋座、studio21 で公演を行ってこられました。3回シリーズで懐かしい舞台写真と共に振り返ります。



### 記録に残すことの意味

—「15年を彩った人たち」を終えて—

この号をもって、3回にわたった京都芸術劇場 15周年記念特集「15年を彩った人たち」の連載が終了する。感激した公演、懐かしい公演、忘れていた公演、知らなかった公演と、読者にはさまざまな反応があったことと思われるが、残念なのは、ここに紹介できたのは舞台芸術研究センターの主催公演のうちのほんの一部にすぎないことである。記録は記憶を呼びさますだけでなく、新たな発見、そして創造にもつながる。いずれは本センター主催公演を網羅した記録集が編まれる必要があるだろう。

舞台芸術研究センター所長 天野 文雄



出演：川越塔子

春秋座オペラ『蝶々夫人』

川越塔子さんは2010年に初めてオペラ「夕鶴」のつう役で出演してくれました。美しい声と繊細な表現力で好評を得て、「ラ・ボエーム」(’11)、「蝶々夫人」(’13)、「椿姫」(’14)、「セヴィリアの理髪師」(’15)と5回も主演してくれています。藤原歌劇団のスケジュールを縫って春秋座オペラを盛り上げてくれた彼女は文字通り春秋座オペラのプリマドンナです。

——橋市郎(春秋座 顧問プロデューサー)

2013



Photo: Shimizu Toshihiro

構成・演出：川村毅

P.P.Pasolini's PORCILE『豚小屋』

パゾリーニの戯曲上演は私の三十年来の願いだった。この『豚小屋』で実現させ、都合六作品を上演した。春秋座の舞台上舞台はパゾリーニの反資本主義思想を見事に受け止めた。——川村毅(主任研究員)

2011



出演：鼓童

鼓童 ワン・アース・ツアー 2013 ～伝説

春秋座初登場の鼓童「ワン・アース・ツアー」が実現した。プログラムは坂東玉三郎さんが芸術監督に就任して記念すべき第一作の「伝説」である。静と動を対比したモノトーンの世界から、躍動するエネルギーを放ちながら彩り豊かに演奏が展開していく。クライマックスでは、鍛え上げた肉体を太鼓に投げ、魂の響きによってカタルシスへと導いてくれた。

——館野佳嗣(春秋座チーフプロデューサー)

2013



撮影：桂秀也

出演：市川猿之助

市川猿之助  
春秋座特別舞踊公演

猿之助さんが春秋座の芸術監督就任後初となる舞踊公演を行った。演目は「伊達」にちなんだ長唄の「助六」と「女伊達」をご披露。男伊達の「助六」は、素踊りで豪快な荒事を見せ、「女伊達」では、本拵えにて男勝りの女侠客を格好良く演じた。対照的な江戸男と江戸女の粋で華やかな踊りを見事に演じ分け、猿之助舞踊の醍醐味を存分に満喫した。

——館野佳嗣

(春秋座チーフプロデューサー)

2013



Photo: Shimizu Toshihiro

出演：宮城能鳳、西江喜春

2011

組踊

2011年から始まった「琉球舞踊と組踊」は今年で3回を数え、春秋座公演は定着したように思う。組踊立方の宮城能鳳を春秋座で開講している公開講座「日本芸能史」の講師に招いたことがきっかけだった。「この劇場は素晴らしいですね。このひとことで公演が実現した。写真は『銘刈子』（2016年上演）。能鳳演じる切なくも美しい天女に観客は圧倒されるばかりだった。——田口章子（主任研究員）」



Photo: Shimizu Toshihiro

ダンス：白井剛・寺田みさこ 朗読：渡邊守章・浅田彰  
ピアノ：坂本龍一 映像：高谷史郎

2012

マラルメ・プロジェクトⅢ

『イジチュール』の夜へ「エロディアド」／「半獣神」の舞台からステファヌ・マラルメの詩篇を元に朗読・音楽・ダンス・映像で舞台作品を創るといふ、このメンバーにしか実現できなかったであろう3年に渡るプロジェクトの最終年。浅田さん、坂本さん、高谷さんが春秋座の何もない空間で渡邊先生の「半獣神の午後」の伝説・日本語朗読を聴いたのが、この企画の始まりだった。——川原美保（制作担当）」



Photo: Shimizu Toshihiro

出演：観世清和

2013

世阿弥生誕六百五十周年記念  
観世流宗家観世清和師による「翁」

2013年、世阿弥生誕650年記念にあたり、春秋座の歌舞伎舞台上で、観世宗家清和師に『翁』を舞っていただいた。能の演目のなかでも特別に神聖化されている曲を通常の能舞台ではなく、歌舞伎劇場の舞台上で舞っていただくことで、この曲の持つ祝禱性が、いかに不変な力をもつかが証明された。感動的な舞台であった。——渡邊守章（主任研究員）」



Photo: Shimizu Toshihiro

作：松田正隆 演出・美術：松本雄吉

2013

石のような水

舞台芸術研究センターが自主製作し、本格的な東京公演までこぎつけた初めての作品。勾配のゆるやかな春秋座の客席に、あえて「特設客席」を重ね、奥行き一杯まで組んだ舞台装置を急角度で見下ろした時の圧倒的な光景は、鮮明に覚えている。タルコフスキー映画を愛した松田×松本コンビが総力を結集し、維新派制作スタッフの全面協力も受けた。——森山直人（主任研究員）」



Photo: Shimizu Toshihiro

構成・演出・美術：杉原邦生(KUNIO)

2014

演じるシニア 春秋座サバイバーズ「レジェンド・オブ・LIVE」

公開講座に通うシニア世代の熱心な姿をみたスタッフの発案から始まった企画。公募で集った60歳以上の出演者30名が、杉原邦生、本学学生と共に演劇作品を創作。「人生」をテーマにした作品の出来栄に客席から惜みない拍手が送られた。その後も一般参加者、アーティスト、学生の三者で舞台をつくる参加型企画は募集対象を広げながら継続されている。——井出亮（制作担当）」



Photo: Shimizu Toshihiro

作・演出・美術：やなぎみわ

2015

ゼロ・アワー —東京ローズ最後のテープ—

いまや本学の看板教授である、美術家やなぎみわの本格的な舞台作品。驚異のトレーラー演劇『日輪の翼』が、真っ赤に燃える祝祭だとすれば、『ゼロアワー』は、いわば青くて透明な世界。まさにそんななかに、アメリカと日本の狭間を生きた女性たちの「声」が浮かび上がる。日本の戦後70年にふさわしい企画が実現した。——森山直人（主任研究員）」

——森山直人（主任研究員）」

## しゅす くつ 繻子の靴 — 四日間のスペイン芝居

12月10日(土)、11日(日) 11:00

◎公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

### 壮大な「禁じられた恋」日本初演！

『繻子の靴』は、フランスの前衛劇詩人であり、世界各地で活躍した外交官でもあったポール・クロードが大正年間の日本滞在中に書き上げた、航海時代を舞台に繰り広げる作品です。

「四日間のスペイン芝居」と副題されている通り、「一日目」から「四日目」の四部構成による芝居です。1943年、パリのコメディ＝フランセーズで演出家ジャン＝ルイ・バローとの共同作業で上演し

た初演では「四日目」の最終景を除いて全てカットしましたが、「四日目」が第二次世界大戦後の前衛劇である「不条理演劇」の先取りでもあったことから、1970年にパロー劇団が上演したのをきっかけに、「全曲版」を上演するのが『繻子の靴』上演の定式となりました。

しかし、そのスケールのあまりの大きさに、日本では長い間もともと上演困難な作品のひとつとされてきました。今回、

舞台芸術研究センターでは満を持して日本初の「全曲版」に挑みます。かつてフランスでは徹夜上演も行われた大作を、今回は30分の休憩を3度挟みながら8時間超で上演。単に「日本初演」と言うだけでなく、フランスやドイツにおける「全曲上演」では明らかにならなかった局面を含めて、この「世界大演劇」の深層とその変奏を舞台上に出現させるという、世界的に見ても画期的な企画でしょう。



2015年度劇場実験より Photo: Shimizu Toshihiro

渡邊守章さんの演出作品に出演するのは、これで3度目になるのですが、渡邊さんが翻訳する日本語の美しさが大好きです。セリフを発している言葉が感情を持っていくと常々思っていました。このドニャ・ブルエーズという役は、私が今まで演じた女性像のすべてを集めても間に合わないぐらいの人。繊細で大胆で情熱的で道徳心があって賢明で、同時にずる賢くて、と、ありとあらゆる面を出して演じていかないと追いつかないぐらいのやりがいのある役です。8時間、退屈しないで面白かったと言っていただけのような芝居にしたいと思っています。 **ブルエーズ役 剣幸**



『繻子の靴』の翻訳を読ませていただき「渡邊守章の翻訳は文楽の足取りのようにいい」と申し上げたんですね。この「足取り」という言葉は能楽の言葉ですが一般的に使われるのは文楽の三味線です。つまりテンポのことですね。その足取りを成立させるためには呼吸法が大事で、つまり間（ま）です。この空白に何をこめて相手に、観客にコミュニケーションするかが大事であって、間の取り方というのが、「足取り」を支配します。渡邊先生の翻訳は役者が身体化しやすい言葉になっているということと、間がとりやすいことに大きな特徴があります。今回、どのように演出なさるのか楽しみです。

渡辺保（演劇批評）京都芸術センターでのレクチャーより

作：ポール・クロード『繻子の靴』  
(岩波文庫刊)

翻訳・構成・演出：渡邊守章

映像・美術：高谷史郎

照明：服部基

出演：剣幸／吉見一豊、石井英明、阿部一徳、小田豊、瑞木健太郎／茂山七五三、茂山宗彦、茂山逸平、島田洋海、鈴木実／岩澤侑生子、岩崎小枝子、鶴坂奈央、千代花奈、田中沙依、片山将磨、山本善之、磯貝優志、谷田真緒／藤田六郎兵衛（能管）／野村萬斎（映像出演）

演出助手：木ノ下裕一、岩崎小枝子

映像プログラミング：濱哲史、古舘健、白木良

映像技術：三谷正

音楽：原摩利彦 音響操作：宮田充規

舞台監督：夏目雅也、大鹿展明 衣装：萩野緑

主催・製作：

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター

#### Story

舞台は、16世紀末のスペイン。「新大陸」の征服者（コンキスタドル）である若き騎士ドン・ロドリッグと、若く美しき人妻ドニャ・ブルエーズの、地上ではかなうことのない激しい恋の物語です。ブルエーズの夫、老大審問官ドンペラージュと、はるか大西洋をみわたすアフリカ・モガドル要塞にありキリスト教を否定しようとする背教者ドン・カミーユを巻き込んでの、壮大な「すれ違い」の物語が地球を舞台に繰り広げられます。

# 歌劇『カルメン』全4幕

12月17日(土)、18日(日) 14:00

●公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

## 春秋座オペラ第7弾は、 ジョルジュ・ビゼー作曲の 大人気オペラ！

『カルメン』は、社会からドロップアウトした若者たちの熱く、せつないラヴ・ストーリーだという演出家の三浦安浩さん。その見どころについて、お話を伺いました。

舞台は南スペインのアンダルシア地方にあるセヴィリア。町の衛兵であるドン・ホセは、実は北スペインのナヴァアラ地方の出身で、名前に「ドン」と付いていることから分かるように貴族の青年です。お金持ちの貴族なので楽器の演奏もできるし、勉強もできる。それがあつ時、暴力事件を起こしてしまい町を追放されてしまいます。

新しい町セヴィリアでホセは失つた貴族のプライドを取り戻すため、また、不幸せにしてしまった最愛の母を幸せにするために衛兵に志願して一兵卒から始め、今、伍長の位にいますが、ゆくゆくは中尉や大尉になりたいと思っています。

ですが生まれ育つた北スペインと南では歴史も違つし文化も違つ。日本でいうなら津軽の人が鹿児島、それも桜島が見えるような遠くの土地に來た感じですね。この話では、そこが重要です。そういうことから僕が思うには、寡黙でまじめなホセは周りの人と境界を感じていたと思うし、いじめも受けていたのではないかと思うのです。

一方、カルメンはジプシーの女性です。流浪の民で両親が誰か、家族はいるのかも分かりません。そんなカルメンの魅力は、人とは違つ何かを持っているということ。例えば、みんなと違つ目の色、髪の毛、違つ肌の色をしている。そして美人で歌もダンスも上手。そうすると、みんなが興味を持ちますよね。でも、それは見世物としての興味なわけです。しかも彼女自身、それをよく分かっている。

そんな二人が会つた瞬間、互いの中にある「孤独な魂」のようなものを感じ取つたんじゃないかと思うんです。ですからホセは、喧嘩をして捕まつたカルメンを逃がして二ヶ月間牢獄に入る。もう、これは一種のお伽噺ですよ。でも、『カルメン』とは、そういう悲しみを抱えた二つの魂が会つう話だと思つんです。



そして牢獄から出てきたホセは兵隊の生活を捨てて密輸団に入り、アウトローな生活をするようになるわけです。ですが自由にみえたカルメンらの生活にも掟があり、そして実はあの男も、この男もカルメンと情を通じていた。そういう現実を目の当たりにしてまた孤立し、自分は一体、何をしていたのだらうと思つていたところ母親の危篤を知り、カルメンの元を離れるのです。しかし、母親が亡くなり糸がきれたタコのようになつたホセは、もう兵隊でもないし、一般社会にも戻れない。ジプシーの社会からも逃げてしまつたので、もうどこにも行く場所がない。そこでカルメンともう一度、やり直せないかと話し合いに行きます。

ところが、その時、すでにカルメンは占いの結果でホセに殺されて死ぬことを知つていたのです。一方、ホセも希望があるわけではありません。もう、こしかなないという気持ちでやってくる。二人の意地の張り合いの末、ホセはカルメンを刺し殺してしまうのです。

そんな風に『カルメン』は、ただ単に異国情緒に満ちたスペイン文化を紹介する作品でもありませんし、よくファム・ファタールと言いますが、魔性の女性に出会ってしまったために破滅に至つた男の話でもないと思つんですね。カルメンは男たちに下卑た目で見られながらも、自分のプライドと必死に戦つて生きている。その悲しさをホセはどこかで分かっているんです。この作品では「純粋な愛とは一体、何だらう」ということがテーマになると思つています。春秋座でのオペラ『カルメン』にぜひ、ご期待ください。

## 両日とも見逃せない ダブルキャスト



藤井泰子



並河寿美

タイトルロールはイタリアでも活躍する藤井泰子、各地の公演で高い評価を得ている並河寿美が務めます。ぜひ、二人のアリアをお愉しみください。ドン・ホセ、ミカエラ、エスカミーリョ、他、魅力的なキャストもお見逃しなく。

## 京都造形芸術大学学生も 舞台装置の製作に参加！

舞台美術には、第36回伊藤薫朔賞奨励賞を受賞した柴田隆弘（京都造形芸術大学 舞台芸術学科教員）を迎え、本学学生と共に舞台装置を製作、春秋座の回り舞台を生かした演出を行ないます。

オーケストラピットと花道を併設して上演するのも歌舞伎劇場春秋座ならではの。どのシーンでその特徴が生かされるかはご覧頂いてのお楽しみです。



学生が作成した舞台装置模型

## 歌劇「カルメン」全4幕 特設サイトも併せてご覧ください。

[www.shunjuza-carmen.com/](http://www.shunjuza-carmen.com/)

## 「シニア演劇」から見えてきた「演劇と教育」の課題

一昨年、定年退職後にまとめた私の授業実践記録に、「演劇を芸術科の授業に位置付ける」という全国高等学校演劇協議会発足以来の悲願は、今こそ必要であると書いた。60年も前に唱えられたこの主張を、全国各地で「演劇の授業」が高校で行われるようになった現在の状況を背景として、あらためて訴えたのである。

教職を退いて「シニア演劇」を現在進行形で体験している私は、この主張をよりいっそう当たり前の議論として提起したいと考えている。

「シニア演劇」では年を取っている俳優が、若い役もやれば、高齢の女性が少年役もやる。介護や自分の病気と闘いながらも、どうしても舞台上に立ちたかったから、の信念で稽古に通ってくるシニアの人々。私はこの「シニア演劇」に出会って「生涯演劇」という

概念が浮かんだ。「生涯スポーツ」と同じ考えである。

幼児の遊戯から始まり、中学、高校の演劇部、そして時にプロへの夢も追いかけてみる青春の演劇時代。その夢が現実の生活の日々に転じて、舞台へのあこがれがなお作りあげるシニア演劇。演劇をやりたい、舞台上に立ちたいと思う人々の心や姿勢は、このように見れば人生の紆余曲折をとまなびながら一貫して存在する芸術的精神と言えるのではないだろうか。

だとすれば、学校教育で歌を教え、絵を教えるのと同様に演劇を教えることは芸術教育、表現教育にとって当然のことであると言わなければならない。そうした教育を受けた人間が教員として理科や体育を教える。そしてそんな教員の指導を受けて社会に出た若者たちが草野球やフットサル、バンド

やダンスを楽しむように、地域のホールで演劇を楽しむ。そのとき、職場で知り合った音楽好きの仲間は音響を手伝い、美術の友は舞台美術に手を貸してくれる。そんな社会をこの国に作りあげることができたら！

「演劇と教育」の課題は、近代公教育150年の歴史を塗り替える大きな事業なのである。

### 吉田美彦

NPO 法人  
日本学校演劇教育会  
関西支部事務局長



大阪府高等学校演劇連盟・全国高等学校演劇協議会顧問 近畿高等学校演劇協議会委員長在任中に、春秋座「演じる高校生」の立ち上げにかかわる。2016年4月演劇ユニット「りぼん堂」を創立。大阪市、摂津市でシニア演劇活動を行っている。

## 演劇ほど、いつまでも人が飽きぬものはない

渡邊守章という名前を目次で見るとおれは「ヨッ、新人演出家」と口に出す者である。むろんその台詞の内容は事実にあらず、「新人演出家」が50年に及ぶ息の長い活動を続けるはずもないし、この演出家へ寄せられる名声を知らぬわけでもない。むしろ逆である。しかし、にもかかわらず、彼の名前を見るたびに「新人演出家」と呟く者なのである。フランス文学、演劇の研究者、翻訳家、批評家としての膨大な仕事量に原因があると思われる。物書きとしての姿があまりに強烈であり、それによって演出の実践が、比較的小さく見えてしまう。つまり、渡邊守章という演出家は、研究と翻訳の二人三脚の果てに登場するわけであり、副業のように映りかねない。むろん、本業がありそれに対して実践があるのでなく、自身による翻訳作

品を主にするという演出の恐るべき原則を見てもわかるように、すべては演劇をこの世に出現させるための壮大な手続きであるだろう。特に『繻子の靴』は半世紀を超える構想を経て立ち上がるというよく、彼の嫌うカタカナ言葉をあえて使えばレジェンドとしてその完成を間近に目撃することになるのである。どこから見ても偉大な演出家としか思えぬのだが、それでもなお「新人演出家」と口をついて出てしまうのは、彼の書くその独特な文章が、演劇に対して、いつも初々しい憧れ、そんな言い方がヤワに聞こえるのなら闘争心が、そう、彼と同世代のヌーヴェルバーグの若者達のように込められているからだ。今なお論考の隙間に顔を出さず辛辣な言葉や自信に満ちた言葉があまりにも面白く、そんな数行をおれは声に出して読み、まるで台本のように

向き合うことがしばしばあるのだが、そのとき、書物の向こう側に、演出家・渡邊守章の影を見るように思う。それは「知の巨人」的に敬して遠ざけるべき姿ではなく、書齋と稽古場を行き来する果てなき往復運動に飽きることがない、むしろこれから「売り出し中」の新人演出家の横顔である。

### 福永信

小説家



主な著書に『星座から見た地球』（新潮社、2010）、『————』（河出書房新社、2011）、『三姉妹とその友達』（講談社、2013）など。編著に『こんにち美術』（岩崎書店、2012）、『小説の家』（新潮社、2016）がある。

12 December 2016

□ 演劇/主催公演

10日(土)、11日(日) 11:00 (終演 20:30 頃) ◆春秋座

『縺子の靴』—四日間のスペイン芝居 ◎特集▶ P.04

【発売中・全席指定】  
一般 6500円 友の会 5500円 シニア 6000円  
学生&ユース 3000円 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

T-C OTS ぴあ e+ 生協

□ オペラ/主催公演

17日(土)、18日(日) 14:00 ◆春秋座

G.ピゼー作曲 ◎特集▶ P.05

歌劇『カルメン』全4幕 日本語字幕付原語上演

【発売中・全席指定】  
SS席 一般 10000円 友の会 9000円 **完売**  
S席 一般 9000円 友の会 8000円  
A席 一般 8000円 友の会 7000円  
学生&ユース席 3000円

★託児サービスあり(詳しくは劇場HPをご覧ください)。

T-C OTS ぴあ e+ 生協 新聞

1 January 2017

□ 伝統芸能/主催公演

29日(日) 14:30 ※公演の前、14:30よりプレトークあり ◆春秋座

企画・監修 渡邊守章 春秋座 一能と狂言

【発売中・全席指定】 **完売**  
S席 一般 7000円 シニア 6500円 友の会 6000円  
A席 一般 6000円 シニア 5500円 友の会 5000円  
学生&ユース席 2500円 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

T-C OTS ぴあ e+ 生協

2 February 2017

□ 演劇/主催公演

5日(日) 14:00 ◆春秋座

高校演劇コンクール近畿大会優秀校 ◎特集▶ P.08

第16回「春秋座」招待公演 演じる高校生

【一般発売 12月7日(水) 10:00/全席指定】  
一般 1500円 友の会 1200円 学生&ユース 500円

T-C OTS ぴあ 生協 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

4 April 2017

□ 伝統芸能/共催公演

◆春秋座

都をどり in 春秋座

1日(土)~23日(日) 1日3回公演 ※4月10日(月)・17日(月)は休演  
1回目 13:00 2回目 14:45 3回目 16:30

【チケット料金】  
茶券付特等観覧券 4600円 壹等観覧券 3500円

◎チケット取り扱い・問合せ: 祇園甲部歌舞会 tel:075-541-3391  
※京都芸術劇場チケットセンターでの一般チケットお取り扱いはございません  
主催:公益社団法人京都市観光協会・祇園甲部歌舞会

□ 演劇/学生公演

舞台芸術学科 三浦基クラス授業発表公演 ◆studio21

恋人たち  
12月2日(金)18:00/3日(土) 12:00、15:00 無料

JiIn project 卒業制作・演劇公演 ◆studio21

検察官  
12月23日(金) 13:00、17:00/24日(土) 13:00  
800円(当日1000円)

舞台芸術学科 川村クラス授業発表公演 ◆春秋座

新宿八犬伝 第五巻 犬街の夜  
2017年1月14日(土) 16:00/15日(日) 13:00  
無料

舞台芸術学科 鶴山クラス授業発表公演 ◆studio21

コトバ ~岸田國士作品集~  
2017年1月21日(土) 17:00/22日(日) 14:00 無料

◎学生公演に関するお問合せ・申し込み: 京都造形芸術大学 舞台芸術学科研究室  
tel:075-791-8237 (平日9-17時、夜間休日は留守番電話対応)

公開研究会 文部科学省認定 共同利用・共同研究拠点  
舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点

2月6日(月)/7日(火) ◆studio 21

アジアの大学における演劇教育  
—劇場を活用した舞台教育の方法論的探求

《ワークショップ》10:00 《シンポジウム》15:30 (6日のみ)  
参加: ワークショップは本学学生・卒業生限定。見学は一般も可。  
ワークショップ定員: 20名程度  
【無料】ワークショップ、見学とも要予約

2月18日(日) 13:00 ◆studio 21

太田省吾をく読む —「未来」の上演のために

【1000円(予約優先)】 T-C ◎特集▶ P.08

◎共同利用・共同研究関連のお問合せ  
共同利用・共同研究拠点事務局(舞台芸術研究センター内、平日10-17時)  
tel:075-791-9144 http://www.k-pac.org/kyoten/information/

□ 講演・レクチャー

日本芸能史  
15周年記念「日本芸能史の古代・中世と近世」後期

① 12月5日 「邦楽囃子」実演	講師: 藤舎呂船 (小鼓演奏家)
② 12月12日 「日本舞踊」実演	講師: 坂東温子 (舞踊家)
③ 12月19日 「乙女文楽」実演	講師: ひとみ座乙女文楽
④ 1月16日 「日本芸能史」講義	講師: 田口章子 (歌舞伎研究)

2017年度 日本芸能史 開学40周年記念 ◎特集▶ P.08

会場: 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)  
毎回: 月曜日 16:30~17:50  
前期(全14回)4月10日(月)~7月17日(月) 受講料: 15,000円  
後期(全14回)9月25日(月)~2018年1月22日(月) 受講料: 15,000円

問い合わせ: 京都造形芸術大学 京都藝術学舎  
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 人間館中 2階  
Tel.075-791-9124 Fax.075-791-9021  
受付/平日:10時~16時 休日/日曜日・祝日・入学試験実施日・年末・年始

T-C 京都芸術劇場チケットセンター OTS 劇場オンラインチケットストア e+ イープラス http://eplus.jp  
ぴあ チケットぴあ http://t.pia.jp TEL.0570-02-9999 生協 京都、滋賀各大学生協プレイガイド  
新聞 京都新聞文化センター(京都新聞社1F) TEL.075-256-0007 (窓口のみ10-17時※土・日・祝除く)  
KBS KBS京都事業部 TEL.075-431-8300 (電話のみ10-17時※土・日・祝除く)

\*記載のないものについての開場は開演 30 分前  
\*特に標記のない場合、前売と当日は同じ料金  
\*ユースは25歳以下、シニアは60歳以上対象(一部公演を除く)  
\*学生・ユース・シニアは要身分証明書提示

高校演劇コンクール近畿大会優秀校 第16回「春秋座」招待公演

## 演じる高校生

近畿大会でトップに立った高校演劇部2校の招待公演。高校生のみずみずしい感性で描かれる舞台を春秋座の本格的な舞台でぜひご観劇ください。本公演の後、1校は全国高等学校演劇大会へ、もう1校は春季全国大会へと進みます。

「演じる高校生」とは

11月に開催される高校演劇コンクール近畿大会の優秀校2校を春秋座の本格的な舞台に招待し、作品を上演する企画です。春秋座のこけら落とし以来、毎年開催し今年度で16回目を迎えます。

### 高校生のための演劇ワークショップ開催

2月5日(日)当日の午前中に、高校生のためのワークショップを行います。

【料金】無料・要事前申し込み ※申し込み方法の詳細は劇場HPをご確認ください

【講師】平井愛子(京都造形芸術大学教授/演劇トレーナー)

アフタートークショー開催決定! 出演:土田英生(劇作家・演出家/MONO代表)

昨年の出場校



和歌山県立串本古座高等学校



兵庫県立明石南高等学校

共同利用・共同研究拠点

## 太田省吾を「読む」——「未来」の上演のために

1960年代日本の前衛演劇の旗手たちは、「劇的言語」「劇的身体」をめぐって、リアリズムに還元できない独自の視点・アプローチを各々が持っていました。なかでも太田省吾は、「沈黙劇」を軸に独自の言語論、身体論を世に問い、多くの後続作家や他ジャンルの芸術家に大きな影響を与えたことで知られています。近年、彼の作品はヨーロッパだけでなく韓国、インド等で新演出が試みられ、日本でも若手演出家による読み直しが行われています。本研究プロジェクトは、こうした近年の動向を踏まえつつ、より幅広い視点から、田省吾の演劇的可能性の検証をもちろむものです。

最初のスタートとして今年度は、京都を拠点に活躍する若手演出家3人—太田氏自身が立ちあげた本学映像・舞台芸術学科の卒業生でもあり、現在、さまざまな国内外のフェスティバルで活躍しつつある村川拓也、相模友士郎、和田ながらと共同プロジェクトを組み、太田省吾の劇世界の新しい世代から見た可能性を検証。太田省吾の台本、及び批評をテキストに実験的舞台を創作してもらい、ゲストを交えプロセスに基づいたディスカッションも実施していきます。「沈黙劇」に限ることなく、太田省吾の劇言語の演劇観を広く検討の対象として、「未来」の上演について考える企画です。

- 【参加者】
- 研究代表者: 森山直人(京都造形芸術大学舞台芸術学科教授、演劇批評家)
  - 共同研究者: 山田せつ子(ダンサー・コレオグラファー)、相模友士郎(演出家)、村川拓也(演出家・映像作家)、和田ながら(演出家)
  - 研究協力者: 八角聡仁(批評家・近畿大学文学部教授)、新里直之(近畿大学大学院総合文化研究科日本文学専攻 修士課程) 他。

## 2017年度 日本芸能史 開学40周年記念

### 前期「相撲と芸能」

- 総論【理論】  
諏訪春雄 [比較芸能史研究]
- 一人角力【実演】  
大山祇神社(愛媛県)
- 相撲の世界【理論】  
豪栄道豪太郎 [力士] 聞き手: 田口章子
- 神事としての相撲【理論】  
諏訪春雄 [比較芸能史研究]
- 相撲甚句【実演】  
日本相撲甚句会
- 相撲の伝統【理論】  
内館牧子 [脚本家]
- 落語(花筏)【実演】  
桂米團治 [落語家]
- 浮世絵(相撲絵)【理論】  
新藤茂 [浮世絵研究]
- 狂言(蚊相撲)【実演】  
茂山良暢 [狂言師]
- 浪曲(阿武松緑之助)【実演】  
京山幸枝司 [浪曲師]・岡本貞子 [曲師]
- 歌舞伎(双蝶々曲輪日記)【理論】  
田口章子 [歌舞伎研究]
- 常磐津(関取千両轡)【実演】  
常磐津都瓦蔵・常磐津都史 [三味線演奏家]
- 神相撲【実演】  
熊谷房長 八幡古表神社 禰宜(福岡県)
- 壬生大念佛狂言(餓鬼相撲)【実演】  
壬生大念佛講

学習意欲のある方なら、どなたでも受講いただけます。

日程等、詳細はP.07へ

カーテンコール

この3月で15周年イヤーが終了します。次の20、30周年に向けてスタッフ一同、一丸となつてつき進んでまいります。今後とも変わらぬ応援のほど、よろしく願いたします。[S]

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240

営業: 平日 10:00-17:00・公演開催日

京都造形芸術大学  
舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

tel.075-791-9207 fax.075-791-9438

URL: <http://www.k-pac.org/>

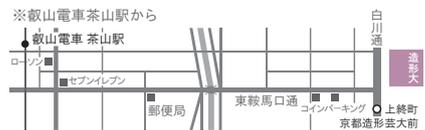
E-mail: [k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp](mailto:k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp)

京都芸術劇場

検索

京都芸術劇場友の会 会員募集中!

詳しくは [http://k-pac.org/?page\\_id=33](http://k-pac.org/?page_id=33)



● JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から  
京都市バス5号系統「岩倉」行き乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車  
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

● 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から  
京都市バス204号系統銀閣寺行に乗車(約15分)  
「上終町・京都造形芸大前」下車

● 京阪電車出町柳駅から  
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの  
ご来場はお断りします。

※所要時間はあくまで目安です。交通事情により  
大きく変動します。

発行/編集

京都造形芸術大学  
舞台芸術研究センター

デザイン 吉羽 一之(シンプルホープ)

京都芸術劇場ニュースレター  
vol.36 発行日—2016年12月1日